

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、
オンライン読書会を開催しています。

★ テキスト・テーマ：

○ 週刊文春 WOMAN 2021.春号

・「なんで家族を続けるの？」 内田也哉子×中野信子×又吉直樹

○ 夫婦の性愛の問題 (村口きよ医師のエッセイ NET 記事から)

★ 参加者 : 11名 (女性8名、男性3名)

★ 参加者の感想



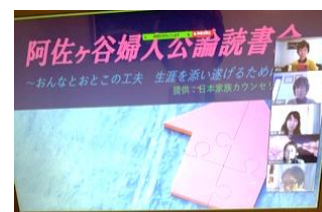
今月は週刊文春 WOMAN(2021)春号から「なぜ家族を続けるのか」「一汁一菜が本当にいいのか」。夫婦の性の問題事例(村口きよ医師)。その他議題としては直接取り扱われていませんが、事前案内として今話題の女性医師富永喜代先生の Facebook の事がテーマでした。

ZOOM の接続に時間がかかってしまい参加が途中からとなってしまうりましたが、接続できた時のテーマは夫婦の性についての問題事例についてでした。特に2事例目の事例が印象的だったので今回はこれに絞って感想を書きたいと思います。

妻が長い1日が終わって夜に2人で向き合いたいと思ったのに夫はさっさと寝てしまい、朝になって子供の世話や弁当作りに忙しいという時に求められて性愛が噛み合わずに満たされないといったことや、お酒を飲んできた深夜に求められ断ると「時間はとらせぬ!」という一言で心が凍りついたという事例でした。

この事例を聞いた時に今の日本でよくありそうな事だと思いました。これに対しての意見は、「夫婦は子供になれる時間が必要」や「性愛や性行為は1人では出来ない事(相手ありき)だからこそ相手のコンディションやメンタルへの配慮が必要」、又、「長生きには性行為はあった方がいい」など様々な意見がありました。又、「生きる=性である」や、「こういう人と人の波長もつまりは人間関係である」と。それに対してスムーズな断り方などの具体的な話も出ました。ポイントは「スマートにアサーションで!!」という事でした。

他人には相談しにくい夫婦やカップルの性愛の話だからこそ1人で抱えて不満や悩みも大



きくなりやすい事、でも生きるにあたって性愛は大きな問題であることから、この不満や悩みの影響は体や心に大きな影響を与えやすいと思いました。こういう事を相談したり話し合う場がもっと身近になったらいいなあと思ひますし、気軽な支援体制が広がると良いなと思ひました。長谷川先生が提唱されている「リマリッジ法」の重要な視点であるとも理解しました。



あまり話す事の出来ない内容を真面目に話し合える場は貴重で、今回も色々な方の意見や異性の意見を聞ける事が出来、理解が深まった気がします。良い学びの場をありがとうございました。
(家族相談士 岩崎真紀)